

実践5-2 学校歯科保健における組織連携

I. 関係諸機関との連携

1. 歯科医師会と養護教諭部会との連携

- 1) 恵那学校歯科保健研究会（歯科医師会と養護教諭部会の合同研修会）発足の経緯

昭和57年（1982年）学校歯科医と養護教諭が繋がりを深め、学校歯科保健活動をより円滑に行なうことを目的に、歯科医師会の発案で発足した。

- 2) 38年間のあゆみ（資料24頁～28頁）と研修内容

研修会は毎年12月に、38年間欠かすことなく開催してきた。歯科検診用語の解説、養護教諭部会からの疑問点についての学習会から始まり、回を重ねる毎に、学校で実践に生かせる実技講習を行ってきた。また、全国

に先駆け要観察歯(C0)を検診に導入し、う蝕予防の実践に取り組む等、歯科医師会との連携を密にして、児童生徒の口腔状態の向上にむけて研修を重ねてきた。

- 3) 参加者の広がり

健康で生き抜く力を育てる研修の場として、現在では教育長・学校長・教頭・保健主事等へ参加の輪が広がり、児童生徒の生涯にわたる健康教育推進の要となっている。

2. 教育委員会との連携

- 1) 学校歯科医の配置と歯科検診日程の調整

学校歯科医の配置は、恵那歯科医師会にゆだねられている。歯科検診については、教育委員会が前年度末に市内全学校の行事日程をまとめ、歯科医師会と日程調整をする。新年度当初に、歯科検診日程が一括して整う。

- (1) 学校歯科医の配置

学校歯科医を希望する恵那歯科医師会会員はすべて、学校歯科医としての登録を行い、地域性を考慮した配置をしている。旧恵那市内の学校においては、6年毎に学校歯科医のローテーションを行う。

- (2) 歯科検診の実施体制（恵那方式）

昭和63年（1988年）から中規模校、大規模校の歯科検診体制を、学校歯科医と応援歯科医による複数検診とし、市内すべてのこども園・小学校・中学校・高等学校の歯科検診がおおよそ3時間で行える体制を整えた。

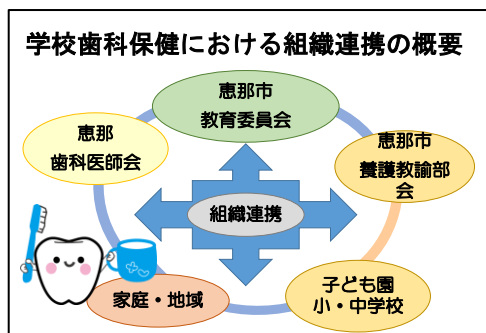
- (3) 個に応じた検診と健康相談

歯科保健調査票をもとに、口腔の疾病異常の有無や健康相談を含め、学校間にばらつきのない精度の高い検診に努めている。

- 2) 歯科関係備品の充実

- (1) 安全な歯科検診にむけて、高圧蒸気滅菌器（オートクレーブ）で歯鏡・探針の滅菌を行うとともに、毎年各学校へ高圧蒸気滅菌器の設置を進めている。

- (2) 子どもの意識を高める歯科保健教育にむけて、位相差顕微鏡・口腔内カメラ等を、恵那市学校保健会の事業費から購入し、各学校が活用して学校歯科保健活動に役立っている。



歯科検診のようす



口腔内カメラによる歯肉撮影



位相差顕微鏡

3) 恵那市内全小学校が参加する

「全国小学生歯みがき大会」

本大会は、日本学校歯科医会・ライオン
歯科衛生研究所の主催で76年の歴史があ
る。恵那市では、市内全員の子どもたちに
口腔の健康づくりを学べる機会をつくりた
いという恵那歯科医師会の提案により、平成25年から市内全小学校
が参加している。



全国小学生歯みがき大会のようす —市内全小学校が参加

4) 歯の優良児童生徒の表彰

恵那市では独自に学校保健会と歯科医師会で表彰を行っている。



こども園訪問のようす

3. 学校間連携

1) こども園との連携

- (1) 就学児童が小学校に安心して入学できるよう、小学校高学年の学級や児童委員会活動等でこども園を訪問し、劇や歌などで小学校の歯みがき活動を紹介している。
- (2) 小学生が下の子に教える活動を通して自分の口腔に関する意識を高めるとともに、年下の子への思いやりの心を育てることにもつながっている。



児童委員会活動による寸劇

2) 小学校と中学校の連携

(1) 生徒会活動の一環として歯みがきタイムを開始

小中学生の歯周疾患が年々増加しており、小学校で培った生活習慣を中学校で継続することが望まれる。しかし、思春期に入ると、自発的に歯みがきをすることに抵抗感がある生徒が多い。生徒の委員会活動の一環として、清潔な口腔内環境を維持、改善するために、中学校での昼の歯みがきタイムの実践化につながった。



中学校での全校歯みがきタイム

(2) 口腔内清掃の個人指導

中学校の保健室でも、計画的に歯肉炎の生徒を対象に継続した個別指導を実施している。

4. 家庭との連携

1) 親子で学ぶ授業参観

- (1) 位相差顕微鏡を用い、親子で歯垢が生きた細菌のかたまりであることを学習する。
- (2) せいかつリズムマップをつくり生活習慣を見直す機会を設ける。
- (3) かみかみクッキング教室で、かみごたえのあるおやつや料理を作るなど、学校の実践を子どもと一緒に学習する場を設け、家庭での実践につなげる活動をしている。



保護者対象の研修会

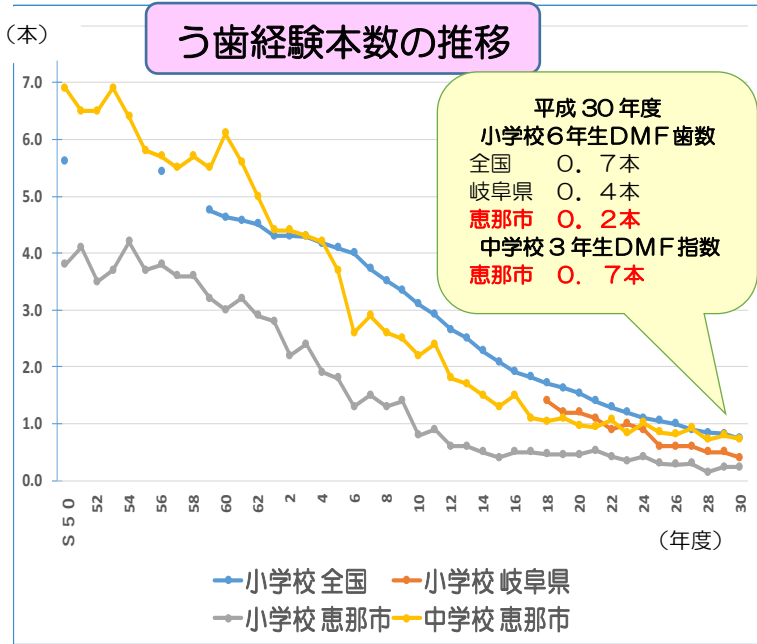
2) PTA 活動を通じた研修

- (1) よくかむことの大切さについて学ぶ。
- (2) かみかみメニューのクッキング教室を開催する。



4年生親子健康料理教室

II. 成果



2. 歯科保健優良校の輩出

右枠内は、歯科保健優良校の受賞歴の一覧である。

学校は、歯科医師会との連携を重ね、特色ある歯科保健活動を推進している。



学校歯科医による親子歯みがき教室

3. 年 2 回の歯科検診の普及と恵那方式検診体制の確立

- 1) 年 2 回検診により、う歯や歯周疾患の早期発見、早期治療につながった。
- 2) 複数歯科医師による検診で、効率的かつ検診精度が均一化された。
- 3) 学校歯科医のローテーションにより、各学校において複数歯科医師と養護教諭との連携強化が図られるとともに、歯科保健活動の学校間格差が縮小した。
- 4) 個に応じた検診と健康相談が充実してきた。



学校歯科医による授業

1. う歯所有率の減少

左のグラフは、小学校 6 年生と中学校 3 年生のう歯経験本数の推移を示したものである。恵那市の小学校 6 年生では、全国や岐阜県の平均を大きく下回り 40 年間で激減した。あわせて中学 3 年生においても、平成 4 年を境に全国の小学 6 年生の平均を下回った。

<市内小学校の受賞歴>

飯地小学校

- 岐阜県学校歯科保健小規模校の部優良賞 (S62)
- ” 小規模校準県一位 (H2)
- ” 小規模校優良校 (H5)

大井第二小学校

- 岐阜県学校歯科保健大規模校の部準県一位 (H26)
- ” 中規模校の部優良校 (H27~28)
- ” 準県一位 (H29~30)

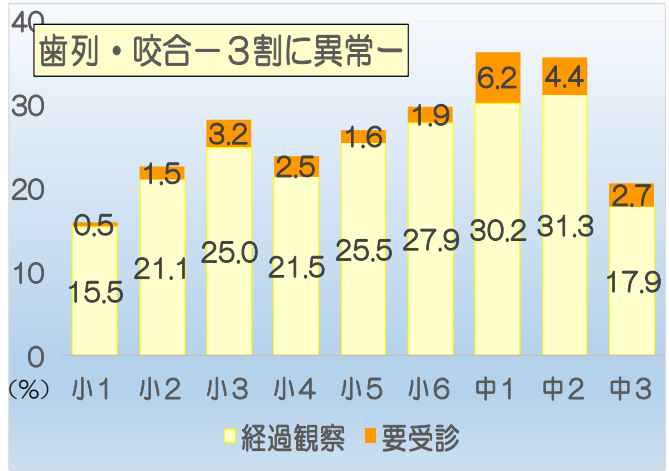
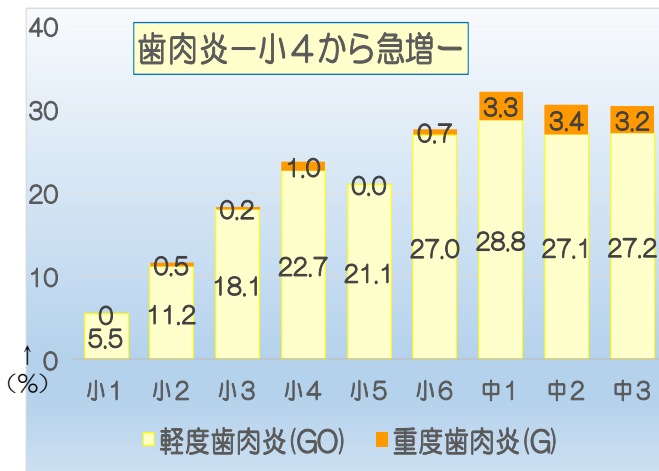
中野方小学校

- 岐阜県学校歯科保健小規模校の部特選校 (H1~3)
- ” 県一位 (H4~6)
- 全日本よい歯の学校特別賞 (H6)
- 岐阜県学校歯科保健小規模校の部特選校 (H7~12)
- 全日本よい歯の学校最優秀賞 (H7)
- 岐阜県学校歯科保健小規模校の部準県一位 (H13)
- ” 県一位 (H14~16)
- ” 特選校 (H17~19)
- ” 準県一位 (H20~21)
- ” 県一位 (H22)
- ” 推進校 (H23~28)
- ” 優良校 (H29~30)

上矢作小学校

- 岐阜県学校歯科保健小規模校の部優良校 (H8)
- ” 準県一位 (H9~10)
- ” 県一位 (H11~13)
- ” 特選校 (H14~16)
- ” 準県一位 (H17)
- ” 県一位 (H18~20)
- 全日本学校歯科保健優良校特別賞 (H19)
- ” 文部科学大臣賞 (H20)
- 岐阜県学校歯科保健小規模校の部特選校 (H21~23)
- ” 推進校 (H24~30)

4. 時代のニーズにあった歯科保健への広がり



上のグラフは、平成30年度恵那市の歯科検診の結果である。歯肉炎罹患者数の増加および低年齢化が進んでいる。また、約3割に歯列・咬合の異常が認められる。

1) PMA index を導入した歯肉炎検診の実施

市内複数の小学校では歯肉炎の広がりを出す指数として、PMA index を活用した個人カルテを作成することによって、児童一人一人が自分の歯肉炎の部位を把握できるとともに、自分の努力によって歯肉炎を治せることを実感できる教育効果があり、ブラッシングの個人指導、学級活動、家庭との連携等に活用している（下写真参照）。



PMA index を導入した歯科検診の様子



1回目の口腔写真 PMA index 15点



2回目の口腔写真 PMA index 0点

2) 学校におけるフッ化物洗口の実施

複数の小学校では、希望する児童へのフッ化物洗口を実施している。

【集団におけるフッ化物洗口の効果】

- 継続することにより、う蝕予防効果がある。
- どの子どもみんな平等にう蝕を予防できる。
- 家庭間における健康格差の均一化を図る。

各学校の実態に応じた予防教育、予防活動が始まっており、今後の成果が期待される。



フッ化物洗口の様子

Ⅲ. 今後の課題

1. 歯周疾患へのアプローチ

う歯所有者が顕著に減少している反面、歯肉炎罹患者数の増加および低年齢化が進んでおり、今後、市内のすべての学校で歯肉炎の予防対策が必要である。児童生徒が歯周疾患についての理解を深め、歯みがき・食生活・生活習慣を軸とした歯肉炎の予防法を学び実践することが、確かな健康観を確立するとともに、生涯を通じて健康を保持増進し、健康な生活が実践できる力をつけることを広めたい。

2. 健康格差へのアプローチ

1) う蝕予防

(1) 学校におけるフッ化物洗口の推進

家庭間における健康格差を是正し、どの子どもも平等に安心して受けられる活動を広げたい。集団で実践することにより健康に対する意識が高まり、継続して実施できる。

(2) フッ化物配合歯磨剤の啓発

児童生徒にフッ化物の効果についての理解を促し、自らフッ化物配合歯磨剤を選択できるよう啓発する。また使用している歯磨剤のパッケージやチューブに表示されている配合の表示や濃度を知り、選択する力をつける。

2) 親子で学ぶ授業の推進

児童が保護者とともに学び、学校の実践を家庭につなげる健康づくりを推進したい。



歯磨剤について学ぶ小学生



親子で歯垢の染め出し



歯磨剤を使った昼の歯みがき

3. 口腔機能へのアプローチ

(そしゃく・摂食・嚥下指導など)

1) 歯・口の外傷予防

う歯は減少、軽症化する中、外傷によって健全歯を失うケースがある。

歯・口の外傷予防や応急手当を学ぶ教育を通して自分の体を大切にする態度や習慣を育てたい。



マウスガードによる外傷予防



学校歯科医による親子学習会

2) 恵那市健幸推進課や幼児教育課、子育て支援課との連携

乳幼児期における不適切な食環境や体験不足、食品の制限や不足などが誘因となり低栄養、学習意欲の減退等を招くことがある。

離乳の過程における摂食機能獲得の遅延、構音機能獲得の遅延、表情表出機能獲得不全、多数歯に及ぶ重症なう蝕、ネグレクト等を早期発見するため、就学前の歯科検診・歯科指導の機会を中心に関係諸機関と、より一層連携する。

3) 歯科健康診断と事後措置

学齢期の子どもは歯列や咬合が発達途上であり、歯列や咬合の異常が摂食・言語機能・審美面に影響を及ぼすことがある。

歯科健康診断を健康増進型のスクリーニングととらえ、「健康調査票」を活用し、事前に問題点を把握する。検診では学校歯科医の「気づき」から口呼吸・アデノイド・ネグレクトなどの問題点を的確に抽出する。さらに学校歯科医・担任・養護教諭が日常の問題点を共有し、課題に対する理解を保護者や児童生徒にうながす。異常の疑いがある場合は、受診を勧告する。子どもが問題点を理解した上で解決策を提示、歯みがきや食生活等を中心にセルフケアを行うとともに、かかりつけ歯科医院によるプロケアを行うことを通して、口腔機能の健全な発達を促す。

4. 歯科保健教育活動を通じた健康の保持増進

児童生徒は、歯みがきや食生活などのセルフケアを行うとともに、かかりつけ歯科医院でのプロケアを行う。学校は歯科保健教育活動における学校間格差を是正し、市内共有の保健学習や保健指導教材を使用できる体制を構築する。学校歯科医は健康教育の要として、健康教育へのアドバイス・職員研修・授業への参加を行うなど、各分野が連携し歯科保健活動を通して恵那市全体の健康の保持増進を進めたいと考える。



学校歯科医から学ぶ職員研修会

5. 家庭・地域とのさらなる連携

歯みがき・生活習慣・食生活を軸にした、学校での歯科保健活動に保護者や地域の方々と連携できるような企画(保護者対象の講演会・親子で学ぶ授業・地域の8020達成者との交流等)を進めていきたい。



8020 達成した方を授業にお招きしインタビューする児童

これまで、お口の健康づくりを通して、健康で生き抜くことの大切さを実感し、実践する力をつけるため、教育委員会、歯科医師会、養護教諭部会、家庭、地域が連携を重ねてきた。子どもたちが健康を保持増進するために、さらなる連携をかさねたいと考える。